

中経 論壇

経営支援NPOクラブ理事

吉田 仁



の白水高広さんには、強い感銘を受けた。

民間人初の宇宙旅行に名乗りをあげたゾツタウンの社長が話題を呼んだが、ネット関係事業においては、若い経営者が活躍している。地方でも素晴らしい若者が活動していることを、先日あらためて感じた。内田洋行が主催する屋台大学には、ユニークな人たちが登場し、本欄でも何回か紹介してきたが、9月18日の「うなぎの寝床」代表取締役

久留米紘（中略）のモンペはグツで地域のモノづくりの良さを伝えるため、2012年にアテナシヨップを立ち上げたのが始まりである。地域文化商社として、モノと人の魅力を発信してきたが、後継者不足問題などに直面し、地域の伝統文化を守るため、出版や観光事業などにも業容を広げてきた。取扱商品の製作体験ができる各種のイベントも開催している。

経済と文化を融合させる「地域文化商社」

ドデザイン賞を受賞し、世代を超えた評価を受け、各地で「もんぺ博覧会」という展示販売会を開いてきた。そのイベントを契機に、その地域の事業者とつながり、コラボも生まれている。遠州織によるモンペ製作は、浜松のHUIS社とのコラボによるものだが、これは久留米紘のメーカーが豊田自動織機を使っていた縁で実現したという。既製品の販売だけでなく、生地と型紙も販売し、自分で縫製する楽しみも提供しているが、コス

トがかからない分、商売として利益が大きいというから、商売上手でもある。少子化や高齢化の中で、地方創生は国の政策として、重要な課題になっているが、地方と東京、地方と海外を結びつけることが主眼になっているように見える。地方と地方を結びつけるという視点で、地域の特産品の販売会を互に行えば、人的交流につながる、双方の活性化が図れるというものである。「うなぎの寝床」には、そうした期待がもてる。

白水代表は弱冠33歳であるが、北九州内にとどまらず、全国各地とのつながりを広めている。その際のテーマは、環境や文化や人の幸せであり、経済と文化をうまく融合させることを基本に考えているのだという。自分の30代を思うと、まさに、後生畏るべしである。

地方と地方を結びつける視点

白水代表は弱冠33歳であるが、北九州内にとどまらず、全国各地とのつながりを広めている。その際のテーマは、環境や文化や人の幸せであり、経済と文化をうまく融合させることを基本に考えているのだという。自分の30代を思うと、まさに、後生畏るべしである。